

海老名市立有鹿小学校 学校運営協議会 議事録
(令和7年度 第2回)

- 1 日時 令和6年11月20日(水) 10:00~12:00
- 2 場所 海老名市立有鹿小学校 コミュニティルーム
- 3 出席委員 碓井雅巳委員、越智正則委員、大久保敏委員
田中由美野委員、伊藤恵美子委員、新井悦子委員
姫野珠実委員、内山大輔委員 宮下翔太委員

4 会議の内容

(1) 開 会

(2) 会長あいさつ

会長欠席の為、副会長碓井委員からあいさつ

(3) 学校長あいさつ

(4) 議事①「上半期の学校状況、教育活動について」
議事②「児童に係る具体的な課題の協議」

姫野校長：有鹿の森も終わり、卒業式以外の大きな行事が終わりました。今年は、記録的な暑さとなり、子どもたちもあまり外で遊ぶことができず、運動会の練習も外でできないこともありましたが、無事に終えることができました。

前回の運営協議会で体育館の工事についてお伝えしましたが、当初の予定より工事の始まりが後ろにずれこみ、12月の下旬から工事が始まり、来年の7月末に終わる予定となりました。卒業式などの行事は体育館の中は使用できるように工事の調整をしていただきます。来年度は1学期いっぱい体育館が使用できないこととなりますので、それに伴い教育計画の見直しが必要になるかと思えます。

6年生の全国学力・学習調査の結果がでました。全体的には、国語も算数もとてもよくできていました。特に学習面で優れていたところは、「授業で自分の考えを発表できる」という点で主体的に学習に取り組んでいることが分かりました。一方、「分からない問題があったときに聞いたりすることができない」という児童が一部いることも調査により分かりました。生活面の調査では「困ったときに相談することができる」という児童が多いことが分かりました。交

換授業等もやっていることから、いろんな大人にかかわれていることが子どもにとってもよいのかもしれませんが。生活面の課題としては、「日々の生活の中で幸せを感じることができない」という児童が一部いることが分かりました。普段の生活の中にある小さな幸せや当たり前の幸せに気づける子を増やしていくための手立てを考えていく必要があります。

また、スマホの普及率が増えていますが、使う中で「約束を守れていない」という結果もありました。スマホに限らず、普段の生活の中でも「学校や家庭での約束、ルール」を守ることができない児童が見られます。これらの課題は、他学年でも同じような状況です。

不登校児童が増加傾向にあります。その中には、学習が苦手だと、「授業を受けたくない。学校に行きたくない。」と学校から遠ざかってしまう児童もいます。海老名市では、インクルーシブな教育を推進しており、本校でも個々にあった指導をしています。人員不足もあり、まだ十分とはいえません。年度末に向けて、これらの課題について本日皆様からもご意見をお伺いしたいと思います。

内山教頭：学校の状況ということで、別室登校が増えていることなどは議事②でもご意見をお伺いしたいと思います。子どもたちが「登校したくなる学校」についてお話してもらいたいと思います。

田中委員：コミュニケーションのことや登校が遠ざかっているというのは、高学年が入学した時は、コロナ禍だったので、それも影響しているのか。

内山教頭：コロナだけでなく、その子自身の困り感も関係していると思う。

田中委員：昔だと周りに合わせなければいけなかったが、今は自分の考えを大切にしているのも別室につながっているのではないかと。教師も人手不足なので大変そうに感じる。

伊藤委員：学力調査の質問紙も個人が分かれば、サポートもできると思う。

田中委員：家庭訪問以外の面談などで保護者とお話できる機会はあるのですか。

姫野校長：年2回個別面談を実施している。

越智委員：あるかルームでは実際何をしているのか。

姫野校長：勉強だけではなく、先生と話をしたりゲームをしたりする子や教室に短時間行って勉強する子など様々です。そのため、個に応じるために教員が必要になり、管理職や級外等の教員が対応しているという現状です。

内山教頭：利用者が増えてきたので、家庭科室の隣の部屋を個別学習の部屋にしている。しかし、そこにつける教員がいないことがあるので、一階のあるかルームがベースになっているのが現状です。

大久保委員：個別対応が必要になってきているが、これだけ利用が増えると、職員の数がいけないといけない。市の方でももう少し力をいれてほしい。学校だけで対応するのは限界があるのではないかと。

内山教頭：先日の出張で不登校について他市の先生方と話し合いがありました。海老名

は、午前中は毎日人が配置されているが、他市ではそこまでやっていないようです。やはり、どの市町村でも同じように人が足りない現状がある。

新井委員：最近の子は、集団でうまく関われない子が多いと思う。返事をしない子も増えてきている。

～ゆとり世代、時代の変化について意見が挙がった～

内山教頭：社会に出たときに、自分で生活できるようになってほしいという願いがある。どの時代でもたくましく生きるためにはどんな力が必要か。

大久保委員：自分の職場を考えても新しく入ってくる職員には変に気を遣う。世の中全体の風潮として、今後考え方が違う別の層ができてくる。そこで私たちの感覚を押し付けるのもちがう気がする。「今の若い子は」とよく言うが、とてもデリケートでよく折れる気がする。もちろん個人差もあるが。昔は根性、精神論だった。

越智委員：昔は場所によって役割が分かれていた。学校は教育、家庭はしつけ。今は、なんでも学校に任せてしまっている。何かあると学校の責任だと言う。世の中が「うまくいかなければ学校の責任」という流れになってきている。

碓井委員：家族の形態は変化し、核家族化したことも大きい。複合家族だと、祖父母と一緒に住んでいて、そこでしつけなどの教育ができる。今は、共働きをしていて、しつける力が足りない気がする。また、学校や行政に言えばなんとかしてくれるという風潮がある。昔は自治会などで顔を合わせてみんなで色々なことをやっていた。今は隣に誰が住んでいるかも分からない。行政などが何でもやりすぎなのも問題だと思う。やはり家庭をどう立て直していくかが大切なのではないか。

伊藤委員：家庭も一つの世界で、いろんなことを教えてくれる人がいたが、今はその世界がとても小さくなってきている。

姫野校長：今は、その小さな世界が子どもにとって安心できて落ち着く場所であり、そこを離れることが不安で学校に来ることができない子どもがいる。

内山教頭：社会に出ると必ずストレスはある。学校がストレスのない場所になることがよいのかかもしれないが、社会に出ていくこれからの子どもたちにとってはそれでよいのかという思いもある。

姫野校長：痛みを知ることで、相手の痛みが分かるということもある。

越智委員：子どもを過度に保護してしまっている。そして、親が子どもをみる目線が変わってきている。

碓井委員：不登校児童の評価は、学校はどうしているのか。

内山教頭：状況によっては、評価はつけられないことがあるのが現状。

姫野校長：海老名市全体で評価については検討しているところである。

内山教頭：保護者の理解を得ながら、進めていきたい。

議事③「目指す姿」の実現に向けた協議

～校長からグランドデザインについての説明～

姫野校長：学校からできる支援、家庭でできること、地域とどう関わっていくか、来年度のグランドデザインに向けて皆様のご意見を伺いたい。

伊藤委員：先日、河原口で自治会のお祭りがあった。当日お手伝いに行ったが、去年ぐらいからボランティアのお店が増えてきており、小学生もボランティアに参加してくれていた。子どもたちが参加してとても盛り上げてくれた。今回のように地域のお祭りなどに参加してくれたのはとてもいいと思った。そして、ぜひ先生たちにも来てほしい。先生たちにとっても、学校では見ることのできない子どもの姿や地域を知るよい機会だと思う。

内山教頭：少し前から長寿会にも昔遊びをお願いしています。地域とのつながりが戻ってきて、子どもにとっても知らない大人ではなく、挨拶をしたり困ったことがあったら言えたりするつながりが地域の方ともてるとよい。

伊藤委員：学校運営協議会の委員にもっと若い人をいれると、各世代の人の話を聞けて良いと思う。

新井委員：現役 PTA や、保護者から委員を募ってもいいのではないかな。

姫野校長：有鹿小学校の特色ある取り組みについてお話をさせていただきます。こちらには海老名市教育委員会より予算の配当がされていますので、次のとおりでよろしければご了承いただきたい。来年度の特色ある取り組みとしては大きく2つであり、鼓笛、交流活動（異学年交流等）を考えている。鼓笛はこれまで通り、有鹿小学校の伝統として引き続き取り組んでいく。コミュニケーション力を育てるために、子どもたちが人とかかわることを充実させる交流活動に力を入れていきたい。異学年集団で遠足に行ったり、いろんな遊びを考えたりするなど、児童会グループを中心に進めていく。

また、来年度は有鹿小学校が開校70周年なので、子どもたち中心に催し物など何ができるかを考えていきたい。

地域交流では、お祭りなど地域の催しについて、全校児童に周知したり、ゲストティーチャーを招いて授業をしてもらったりということもやっていきたい。このような内容で次年度に向けて更に細案を考えていきたい。

田中委員：異学年の交流はとてもいいと思う。

「有鹿小学校 PTA の新体制について」

姫野校長：昨年度からアンケートなどを通して、PTA スリム化委員会を中心に PTA 活動の改革に取り組んでいる。PTA の常任委員会をなくして委員数を大きく削減し、広報誌や有鹿の森も今後ボランティア制にして継続していく予定です。もし、募集しても人数が集まらなければ、実施を見送ることになります。

10 月に臨時総会（書面総会）にて、新体制の決議決定がされ、現在は、来年度の本部役員を選出に向けて取り組んでいるところです。

ボランティアにすることで必要な人数が集まるかという心配もあります。現在すでに朝の立哨に関して、おはようパトロールというボランティアの形で、できる範囲で子どもの登校を見守ってもらっています。より安全な登校のために立哨のボランティアを増やしたので、ぜひ地域の方にもできる範囲で参加していただきたいと思っています。ボランティアについては、学校だよりで募集を呼びかける予定です、

新井委員：PTA については、今、スリム化を考えている方々で、みなさんがやりやすいようにしていくことがよいと思う。

大久保委員：今の PTA の加入については、全員加入なのか。

姫野校長：全家庭加入していただいている。令和 7 年度については、3 月初めごろに加入意思確認を全家庭にする予定になっている。

伊藤委員：加入が任意になった場合、会費を払っている人と払っていない人の差についてはどうなるのか。

姫野校長：広報誌などもデジタル化されたことで費用がかからず、全員配信で見ることができる。運動会の参加賞についても、地域の諸団体からいただいたものを配付することで、不平等は生じない。

新井委員：PTA には加入してもらうけど、会費はとらないという形でもよいと思う。また、給食試食会など今まで PTA が主催でやっていたものも、市がやっていく形になるとよいと思う。

内山教頭：他校は会費ではなく、寄付という形でやっているところもある。

新井委員：お金がかかる活動がなくなれば、会費を集めなくてもよくなる。

大久保委員：色々と組織が変わっていく時には、難しい点がでてくると思う。

姫野校長：今後も新体制を進めていくうえで、細かい課題はでてくると思うが、その都度話し合っって進めていきたい。

5 その他

① 学校評価アンケートについて

～教頭からアンケート項目についての説明～

6 事務連絡

- ・ 次回の学校運営協議会の開催予定について

7 閉 会